

1. 「地域資源・交通拠点等のネットワーク化による国際観光振興方策に関する研究」

の評価結果（事後評価）

【総合評価】

人的資源の確保等において不十分な点があったものの、大学・自治体・観光関係機関等と連携して研究を進めるなど意欲的に取り組んだ点は評価でき、研究の実施方法、体制等は概ね適切であったと評価する。また、予算獲得が不十分であったこともあり、事前評価の段階から研究計画を変更しているが、空港を核とする旅客の動向等の現象の解明やガイドラインの作成など、実用に繋がる研究成果が得られており、概ね目標を達成できたと評価する。

なお、ガイドラインの活用方法を含め、積極的なアウトリーチ活動を行い、研究成果が利活用されることを期待する。

【評価指標別評価結果】

研究の実施方法、 体制等の妥当性	1 適切であった	
	2 概ね適切であった	★★★★★
	3 やや適切でなかった	★★★★
	4 適切でなかった	
目標の達成度	1 目標を十分達成できた	★
	2 概ね目標を達成できた	★★★★★★
	3 あまり目標を達成できなかった	★★
	4 目標を達成できなかった	

【指摘事項】

なお、以下の指摘事項があったので参考にされたい。

- ・研究の内容及び成果については良くわかり、実用に使える成果が纏まったと思いますが、研究に当たって、どの様な研究手法を用いて行ったのかを、もう少し明示的にして説明頂きたい。
- ・日本各地の観光資源は色々なレベルのものがあり、これらの地域観光資源をどの様な観点から、どの様に評価するのか。30～40年前にも地域観光資源調査が成されているが、昔とは資源の評価軸が変わってきていること、また、そうした地域資源をどの様にネットワーク化するのか等について、もう少し考察されることを期待する。
- ・それぞれの研究テーマ毎に得られた結論、成果を解りやすく整理すべきであり、取り纏め方法に一工夫が必要である。
- ・ガイドラインを各自治体等々に配布する際に、都市再生、地域振興の枠組との関係を整理し、ガイドラインがどの様な位置付けになっているかを明確にされること期待する。
- ・ガイドラインが観光立国の推進と地域活性化にどれくらい寄与するものに仕上がっているのかが、気になるところである。

- 当初の予算が確保されなかった場合のプロジェクト研究の目標、方法等の見直しを、どの様にするかが大きな課題である。研究のマネジメントを考える上で、今後の検討をお願いしたい。
- 事例分析、情報集積については貴重な成果が得られている。しかし、成果の活用方針の部分が明確になっていない印象が残る。
- ガイドラインの内容が不明確で、今後の利活用を進めるために、広く利用できる内容に仕上げて頂きたい。
- 貴重なデータを収集しているので、今後、調査方法の整備等に繋がるような知見になることを期待する。
- 地方空港の利用促進はその地域の自治体にとって重要であり、成果が利活用されることを期待する。

平成19年11月20日

国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会

第三部会主査 三村 信男